



平成31年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成30年7月25日

上場会社名 日糧製パン株式会社 上場取引所 札  
 コード番号 2218 URL <http://www.nichiryopan.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 勝彦  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 北川 由香里 (TEL) 011-851-8188  
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の業績 (平成30年4月1日～平成30年6月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	4,192	△1.6	43	11.0	50	6.2	28	△1.5
30年3月期第1四半期	4,262	△0.1	39	△42.0	47	△36.0	28	△35.4

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	13.50	—
30年3月期第1四半期	13.70	—

※平成29年10月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を実施したため、前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第1四半期	15,354	4,587	29.9
30年3月期	13,457	4,557	33.9

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 4,587百万円 30年3月期 4,557百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	—	—	15.00	15.00
31年3月期	—	—	—	—	—
31年3月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の業績予想 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	9,000	2.7	150	11.0	150	△6.6	60	△5.9	28.65
通期	18,000	3.4	200	6.8	200	△7.2	80	△18.4	38.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年3月期1Q	2,103,948株	30年3月期	2,103,948株
② 期末自己株式数	31年3月期1Q	9,877株	30年3月期	9,845株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年3月期1Q	2,094,071株	30年3月期1Q	2,094,828株

※平成29年10月1日付で、普通株式10株を1株とする株式併合を実施しております。期中平均株式数につきましては、前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	P. 4
(1) 四半期貸借対照表	P. 4
(2) 四半期損益計算書	P. 6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	P. 7
(継続企業の前提に関する注記)	P. 7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 7
(セグメント情報等)	P. 7
(追加情報)	P. 7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間(平成30年4月1日～平成30年6月30日)におけるわが国経済は、景気の緩やかな回復基調が続いたものの、当業界におきましては、消費者の生活防衛意識が根強い市場環境のもと販売競争の激化に加え、原材料価格、エネルギーコストおよび人件費が上昇し厳しい経営環境となりました。

このような情勢下におきまして、当社は「おいしく、北海道らしく。」の方針のもと、「日糧ベスト70」を中心に主力製品の品質向上を継続し、多様化するお客様のニーズを捉えた新製品開発に積極的に取り組み、安全・安心でお客様に喜ばれる高品質な製品の提供に努めました。4月から3カ月間にわたる「日糧 北海道花の絵皿プレゼント」キャンペーンを活用して、対象製品の取扱拡大をはかり、売上拡大に努めました。また、生産、販売、管理の各部門における業務のさらなる見直しや効率化を進め、継続して経営基盤の強化へ取り組んでまいりました。

製品別の売上状況につきましては、食パン部門は、“しっとり、やわらか”な食感を訴求し取扱拡大に努めた主力の「絹艶」、「絹艶北海道」が堅調に推移しました。昨年10月に発売したシンプルな配合でトースト専用のハード系「イギリス食パン」および本年4月に発売したバターの風味豊かな「プレミアムデニッシュ」の寄与もあり売上は好調に推移しました。菓子パン部門は、「ラブラブサンド」、コッペパンタイプのロール類やドーナツ類の伸び悩みもあり、売上は前年同期を下回りました。一方、昨年発売したフィリングをたっぷり使用した重量感のある「ずっしり」シリーズは、本年5月に品揃えを充実強化して拡販に努めた結果、売上に大きく寄与しました。また、「しっとりあんぱん」等の「北の国のベーカリー」シリーズの取扱拡大をはかったほか、値ごろ感のあるコンビニエンスストア向け製品の提案を強化し売上の確保に努めました。和菓子部門は、「チーズ蒸しパン」等の蒸しパン類や北海道産原料を使用した「福かまど」は順調に推移しましたが、串団子や饅頭類が伸び悩み、前年同期の売上を下回りました。洋菓子部門は、スナックケーキ等の不振により前年同期の売上を下回りましたが、5月に発売したココア風味が豊かな「黒のチョコロール」が好評をいただくとともに、コンビニエンスストア向け製品を積極的に提案し売上の回復に努めました。調理パン・米飯部門は、コンビニエンスストア向けの米飯製品売上の逸失がありました。調理パン製品の量販店向け拡販を積極的に進めた結果、調理パンの売上は大幅に拡大しました。

以上の結果、当第1四半期累計期間の業績につきましては、売上高は4,192百万円(対前年同期比98.4%)と伸び悩みました。営業利益は43百万円(対前年同期比111.0%)、経常利益は50百万円(対前年同期比106.2%)、四半期純利益は28百万円(対前年同期比98.5%)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末における資産合計は15,354百万円で前事業年度末に対し1,896百万円増加しました。流動資産は5,066百万円で主に現金及び預金が903百万円増加し、売掛金が61百万円減少した結果、前事業年度末に対し969百万円増加しました。固定資産は10,287百万円で主に月寒デリカ工場の完成により有形固定資産が914百万円増加した結果、前事業年度末に対し926百万円の増加となりました。負債合計は10,766百万円で主に支払手形及び買掛金が86百万円、長期借入金(1年内返済予定含む)が1,564百万円、その他に含まれる設備手形・未払金が351百万円増加し、賞与引当金が88百万円減少した結果、前事業年度末に対し1,866百万円増加しました。純資産合計は4,587百万円で前事業年度末に対し29百万円増加しました。

この結果、当第1四半期会計期間末における自己資本比率は29.9%、1株当たりの純資産は2,190円62銭となりました。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前事業年度との比較・分析を行っております。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しといたしましては、わが国経済は、景気の回復基調が続くものと期待されますが、当業界におきましては、販売競争が激化する市場環境のもと、人手不足感の強まりに加え原材料価格とエネルギーコストのさらなる上昇が見込まれ、経営環境は厳しい状況が継続すると予測されます。

このような情勢下におきまして、当社は、「おいしく、北海道らしく。」の方針のもと、主力製品を一品ずつ丁寧に見直し、さらなる品質の向上を進めるとともに、多様化するお客様のニーズを捉えた価値ある新製品開発を業態別、チェーン別に積極的に推し進め、パン、菓子部門の売上回復に全力で取り組んでまいります。

本年7月には、北海道札幌市の本社敷地内に月寒デリカ工場が竣工稼働いたしました。当社は、新工場に導入した最新鋭の炊飯設備をはじめ効率化をはかった加工・調理設備を活用して、競争力を高めた高品質な製品の開発・提供により調理パン・米飯類の売上拡大・収益確保をめざしてまいります。

当社は、主要原料である小麦粉価格やエネルギーコストの上昇に加えて人件費の増加を受け、本年8月1日出荷分から、一部のパン製品の価格改定を実施いたします。引き続き安全・安心で高品質な製品を提供しつつ、主力製品に売上を集中し効率化をはかるとともに、価格改定対象品の取扱店数および一店当たりの販売数量の維持、拡大に向けた努力を続け、市場への浸透をはかり業績向上につなげてまいります。

さらに、生産・販売一体となり市場動向に即応した製品施策と営業戦略の展開と迅速な製品開発体制により、新しい価値と新しい需要の創造に取り組むとともに売上拡大をはかりつつ、全社を挙げて一層の業務効率化を推し進めてコスト削減に努め目標達成に向けて努力してまいります。本年7月からは、しっとり、やわらか、ロどけの良い白いパン生地が特徴の「やわらかピュアブレッド」シリーズを展開しております。本シリーズにより菓子パン部門の収益の底上げをはかってまいります。

なお、平成31年3月期第2四半期累計期間および平成31年3月期通期に関する業績予想につきましては、平成30年5月11日に公表した内容から変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成30年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,458,669	2,362,074
受取手形及び売掛金	2,307,213	2,245,969
商品及び製品	43,984	136,354
仕掛品	42,085	23,579
原材料及び貯蔵品	157,361	189,354
その他	87,825	109,548
貸倒引当金	△709	△686
流動資産合計	4,096,430	5,066,194
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,408,956	2,761,584
機械及び装置(純額)	1,279,233	1,658,707
土地	4,662,405	4,662,405
その他(純額)	1,069,676	251,985
有形固定資産合計	8,420,271	9,334,683
無形固定資産		
その他	85,540	81,029
無形固定資産合計	85,540	81,029
投資その他の資産		
投資有価証券	580,255	626,656
投資不動産(純額)	70,510	70,510
繰延税金資産	161,785	131,893
その他	42,735	43,336
貸倒引当金	-	△193
投資その他の資産合計	855,287	872,203
固定資産合計	9,361,099	10,287,916
資産合計	13,457,530	15,354,111

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成30年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,978,419	2,065,148
短期借入金	750,000	750,000
1年内返済予定の長期借入金	539,932	622,680
未払法人税等	21,464	15,617
賞与引当金	195,257	107,185
その他	1,108,612	1,394,141
流動負債合計	4,593,685	4,954,772
固定負債		
長期借入金	1,479,260	2,960,650
再評価に係る繰延税金負債	1,190,579	1,190,579
退職給付引当金	1,568,523	1,594,550
役員退職慰労引当金	65,430	63,739
その他	2,600	2,500
固定負債合計	4,306,393	5,812,019
負債合計	8,900,078	10,766,791
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,051,974	1,051,974
利益剰余金	602,725	599,579
自己株式	△13,125	△13,191
株主資本合計	1,641,573	1,638,362
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	221,538	254,616
土地再評価差額金	2,694,340	2,694,340
評価・換算差額等合計	2,915,878	2,948,957
純資産合計	4,557,452	4,587,319
負債純資産合計	13,457,530	15,354,111

## (2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	4,262,875	4,192,612
売上原価	3,023,775	2,954,935
売上総利益	1,239,099	1,237,676
販売費及び一般管理費		
販売費	985,199	989,308
一般管理費	214,253	204,374
販売費及び一般管理費合計	1,199,453	1,193,683
営業利益	39,646	43,993
営業外収益		
受取配当金	7,732	7,992
受取賃貸料	2,739	2,748
その他	2,784	3,511
営業外収益合計	13,256	14,252
営業外費用		
支払利息	5,555	7,900
その他	0	52
営業外費用合計	5,555	7,953
経常利益	47,347	50,292
特別利益		
固定資産売却益	-	1
特別利益合計	-	1
特別損失		
固定資産除却損	791	1,572
特別損失合計	791	1,572
税引前四半期純利益	46,555	48,721
法人税等	17,864	20,454
四半期純利益	28,691	28,266



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社は、食品関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。